

SURE: Shizuoka University REpository

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/>

Title	成人の学習行動の分析に関する基礎的研究(III) : 浜岡町における成人の学習意識・行動調査を中心として
Author(s)	角替, 弘志; 馬居, 政幸; 渡辺, 治彦
Citation	静岡大学教育学部研究報告. 人文・社会科学篇. 39, p. 199-219
Issue Date	1989-03-20
URL	http://doi.org/10.14945/00002903
Version	publisher
Rights	

This document is downloaded at: 2015-07-11T13:02:26Z

成人の学習行動の分析に関する基礎的研究 (III)

— 浜岡町における成人の学習意識・行動調査を中心として —

A Study of the Analysis of Learning of Adults (III):
Based on the Survey of the Learning Behavior and
Consciousness of Adults in Hamaoka-cho

角 替 弘 志 ・ 馬 居 政 幸 ・ 渡 辺 治 彦^{*}
Hiroshi TSUNOGAE, Masayuki UMAI and Haruhiko WATANABE

(昭和63年10月11日受理)

1. はじめに

本研究は「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究」の「(I)¹⁾」と「(II)²⁾」に引き続き、地域住民の学習行動の分析とその類型化を通じ、生涯教育の観点から地域における成人の教育機会を制度的に再構成するための課題を明らかにすることを意図した基礎的研究である。

そのために「(I)」では御殿場市、「(II)」では田方郡土肥町において、いずれも同一の質問により実施した成人の学習行動に関する調査結果をもとに、それを多変量解析数量化理論第Ⅲ類により分析することから、学習行動類型の析出を試みた。

その結果、御殿場調査では、①地域活動型、②学級参加型、③スポーツ娯楽型、④スポーツ学習型、⑤教養学習型、⑥文化鑑賞型、⑦資格学習型、⑧研修・視察型の8種の学習行動類型が明らかになった。同様に、土肥調査では、①教養学習型、②趣味学習型、③参加創造型、④文化鑑賞型、⑤資格学習型、⑥奉仕学習型、⑦地域活動型、⑧スポーツ型の8種の学習行動類型が明らかになった。さらに、それぞれの学習行動類型の特性を、類型に属する住民の属性とのクロス集計等により考察することから明らかにした。

しかし、更に検討を進める中において、次のような問題点が新たな課題として提起された。

先ず、数量化理論第Ⅲ類により析出された行動類型は、あくまで調査対象者の学習行動の傾向を全体として把握するものであって、住民一人一人の学習行動の傾向を直接的に示すものではない。言い換えれば、我々が明らかにした類型とは、学習行動の類型であって住民の類型ではない。従って、学習行動類型と個々の住民との関係を明確に特定するためには、学習行動類型から住民の類型へと進む手法の開発が課題となった。

また、学習行動類型の析出過程自体にも困難な問題があった。すなわち、類型は30種の学習行動の調査結果を数量化理論第Ⅲ類により分析し、その結果析出されたカテゴリーウエイト値をもとに三次元グラフを描くことから把握した。しかし、三次元グラフからの読み取りは必ずしも容易ではなかった。そのため、読み取る側の恣意性をコントロールすることがかなり困難であった。同様に、グラフを構成している三本の軸の性格を明確に把握することができず、類型相互の関係(構造)を把握しきれないままに終わらざるをえなかった。

* 静岡放送(株)情報システム局

以上のような課題に基づき種々検討した結果、浜岡における調査結果の分析に対しは、因子分析（主因子法）とクラスター分析（ワード法）を併用する手法を試みることにした。

従って、本稿では、まず、因子分析による学習行動因子の抽出過程を述べ、次いで、その因子を基にしたクラスター分析による学習行動に基づく住民の類型化の過程について明らかにしたい。更に、把握された類型の特性を、その類型に属する住民の属性や学習行動とのクロス集計から考察していきたい。

なお、我々が実施した浜岡での調査の概要は次のとおりである。

(1)調査対象

浜岡町在住の20才以上75才以下の成人の中から無作為に抽出した1000名。

(2)調査方法

①浜岡町の地域組織を通じて調査票を調査対象者に配布。約一週間留め置いた後に、同じく地域組織を通じて回収。

②地域組織に属していない対象者には、浜岡町教育委員会を通じた郵送法によった。

(3)調査時期

昭和62年11月中旬

(4)有効票回収数（回収率）

840票（84.0%）

2. 学習行動類型の析出

(1) 分析手法の概要

具体的な地域住民の類型化の過程について記述する前に、今回、類型を析出するための方法として用いた因子分析とクラスター分析の手法の概要について略述しておきたい。

はじめに、分析の手順の概要を示すと次のようになる。

- ①学習行動の基底となっているであろう n 個の共通因子を探し出す（学習行動因子の抽出）。
- ②各個人がその共通因子上どこにいるかを明らかにするために、各人における n 個の共通因子それぞれの因子得点を計算し、それに基づき、 n 次元空間上で距離が近い人達をクラスター（グループ・類型）化する（住民の学習行動類型の析出）。
- ③そのクラスター（グループ・類型）化された人達の特性を分析し意味づけていく（各学習行動類型の解釈とネーミング）。

そこで、先ず、学習行動因子の抽出の方法、すなわち、学習行動の基底となる共通因子を探し出す方法について述べておきたい。

因子抽出のために用意された学習行動調査の質問は、表2-1に示すように、31種³⁾の学習行動の有無を問うものである。そのため、調査結果は「はい」「いいえ」というカテゴリカルな2値変量で得られることになる。通常、このような変量の場合には、分析の手法として数量化理論第Ⅲ類が適しているといえよう。しかし、先に述べたように、これまでの我々の研究により、数量化理論第Ⅲ類による場合、どうしても複数の因子（軸）を明確に抽出しにくいことが明らかになった。そこで、今回は、共通因子を抽出する方法として、本来ならば連続的なデータを分析対象とする因子分析を採用することにした。

具体的には、「はい」に1点、「いいえ」に-1点を与え、回答結果を連続量に読みかえて因子分析をおこなう。また、因子解抽出の方法として主因子法を用いる。さらに、得られた因

子解を解釈しやすいものとするために行う因子軸の回転方法はバリマックス法である。その結果、シャープな因子が抽出できることになる。

表 2-1 「31種の学習行動に関する質問項目」

1. 家庭教育学級、青年学級、父親学級、婦人学級、高齢者学級などの学級に参加しましたか。
2. 先生について習いごと(華道、茶道、謡曲など)をしましたか。
3. 図書館に行きましたか。(どこの図書館でも、どんな目的でもかまいません。)
4. テレビやラジオの教育番組などを利用して、つづけて何かを勉強しましたか。
5. 通信教育を利用して、つづけて何かを勉強しましたか。
6. 民間のカルチャー・センターで勉強しましたか。
7. 免許や資格(自動車、珠算、簿記、保母、など)を取るために個人で勉強しましたか。
8. 免許や資格(自動車、珠算、簿記、保母、など)を得るために学校に通いましたか。
9. 職場や自分の属している団体(農協、婦人会、青年団など)の研修会・講習会に参加しましたか。
10. 研修や視察のための旅行をしましたか。
11. 講演会に行きましたか。(どんな内容の講演でもかまいません。)
12. 音楽会や演劇(芝居)舞踊などの会(歌謡曲やロック、民謡などどんな内容のものでもかまいません)に行きましたか。
13. 展覧会に行きましたか。(どんな展覧会でもかまいません)
14. スポーツの試合の観戦にでかけましたか。(どんな競技でもかまいません)
15. 美術館や博物館に行きましたか。
16. 個人やグループ・団体が文化祭や音楽会や演劇会、放送などに出場(出演)しましたか。(どこで開かれたものでも、プラス、フォーク、民謡、落語など、なんでもかまいません)
17. 展覧会や文化祭などに自分の作品を出品しましたか。(どこで開かれたものでも、絵画、書道、写真、洋裁など、どんな分野の作品でもかまいません)
18. 俳句、短歌、随筆など自分で書いたものを同人誌、雑誌、新聞などに発表しましたか。
19. 個人やグループ・団体の大会に出場しましたか。(どんな規模の大会でもかまいません。また、バレー、ソフト、ゲートボールなど、どんなスポーツでもかまいません。)
20. ボランティアとして福祉的な活動をしましたか。
21. 趣味(料理、囲碁、手芸など)のグループに入って、勉強しましたか。(職場のグループ、地域のグループなど、どんなグループでもかまいません)
22. 体育、スポーツのグループ、クラブ、サークルなどに入って運動をしましたか。(職場のグループ、地域のグループなど、どんなグループでもかまいません)
23. 健康のため、自分1人でなにか運動をつづけましたか。(たとえばジョギングなど)
24. 自分の趣味や関心のあることについて自分1人でつづけて勉強しましたか。
25. 地区の公民館に行きましたか。(どんな目的でもかまいません)
26. 町や地区の祭りに行きましたか。
27. 地域の体育祭・文化祭などに行きましたか。
28. 地域の清掃活動や防災活動に参加しましたか。
29. 子ども会活動や交通安全指導など地域の青少年のための活動に参加しましたか。
30. 青年団、婦人会、老人会などの地域の団体の会合に出ましたか。
31. 地区や隣組の会合に出ましたか。

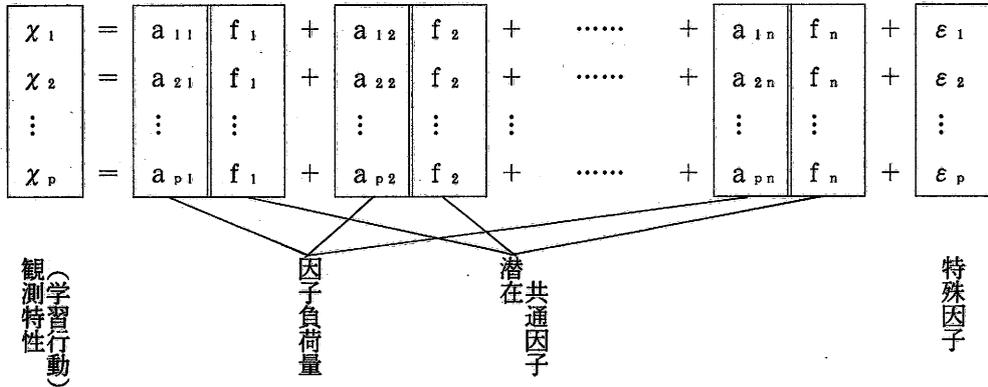
※ 調査は、この31種の学習行動の1年間における参加の有無を問うもの。

表 2-2 「学習行動に対する因子分析による因子負荷量」

因子 学習 行動※	FACTOR 1	FACTOR 2	FACTOR 3	FACTOR 4	FACTOR 5	FACTOR 6	FACTOR 7
2 8	0.639129	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 5	0.617237	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 7	0.612642	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3 1	0.567823	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 6	0.539860	0.0	0.724814	0.0	0.0	0.0	0.0
2 9	0.532066	0.0	0.724692	0.0	0.0	0.0	0.0
2	0.0	0.747257	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1 9	0.0	0.0	0.724814	0.0	0.0	0.0	0.0
2 2	0.0	0.0	0.724692	0.0	0.0	0.0	0.0
2 4	0.0	0.0	0.0	0.625221	0.0	0.0	0.0
1 3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.607031	0.0
8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5	0.0	0.0	0.0	0.308979	0.0	0.0	0.0
9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1 4	0.0	0.0	0.409630	0.0	0.0	0.0	0.0
1 5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.488557	0.0	0.0
1 7	0.0	0.387834	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1 2	0.0	0.278745	0.0	0.0	0.0	0.426356	0.0
1 6	0.0	0.409910	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 1	0.0	0.454961	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	0.0	0.0	0.0	0.263737	0.0	0.344736	0.0
4	0.0	0.0	0.0	0.477960	0.0	0.0	0.0
2 0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
1	0.0	0.304472	0.0	0.0	0.278100	0.0	0.0
1 1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.479568	0.0	0.0
1 8	0.0	0.0	0.0	0.257476	0.0	0.0	0.0
3 0	0.495493	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2 3	0.0	0.0	0.0	0.349578	0.0	0.0	0.0

※ この欄の番号は表 2-1 に提示した 31種の学習行動の番号である。

図2-1 「因子分析のモデル」



因子分析は、図2-1「因子分析のモデル」に提示したように、観測特性の相関行列からはじまり、因子負荷行列を求め、次いで、因子負荷量の大きさ（因子負荷量の平方が、その観測特性と共通因子の共有する分散である。）によって、その潜在共通因子の意味、すなわち学習行動因子の意味を解釈する（因子のネーミング）、という手順で進められる。

そして、この学習行動因子の意味を解釈するために因子負荷量を整理し一覧表にしたのが表2-2「学習行動に対する因子分析による因子負荷量」である。

さて、以上のような手順により抽出された学習行動因子をもとに学習行動類型を析出するためにクラスター分析を行うことが次の課題となる。

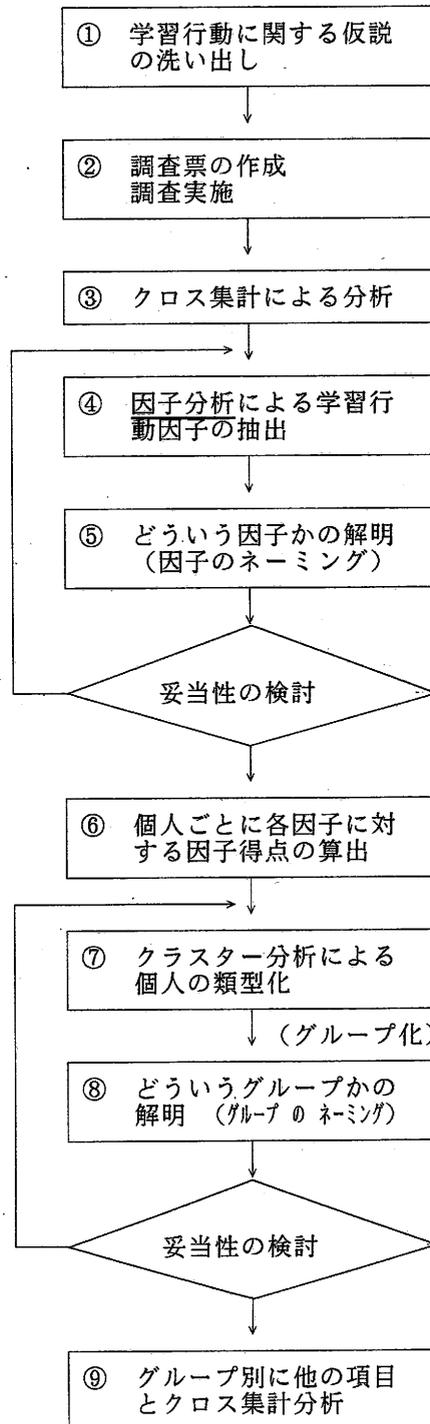
まず、n個の因子（学習行動因子）が抽出されたことにより、調査対象者個々人に対する各因子の因子得点を算出することが可能になる。そのことは、n次元空間上にN個（サンプル数）のプロットが描かれることを意味する。

ここでクラスター分析を行うことになる。すなわち、n次元空間上のサンプルiとサンプルjの距離を計算し、互いに一番近い距離のサンプルを一つのクラスター（グループ・類型）にまとめていく（個人の類型化）。そして、次々とあらたにグループ化される度に、その平均値をグループの代表値と捉え、他のクラスターとの距離を計算しなおし、一番近いクラスターと結合していく。これを、所与のクラスター数になるまで繰り返すことになる。

そして、所与の数のクラスターが析出されたならば、そのグループ分けの妥当性を検討するために、他の設問とのクロス分析により、各グループの反応状況を見て、グループの特性を読み取っていく（グループのネーミング）。このようにして得られた類型が学習行動による地域住民の類型（学習行動類型）として把握されることになる。

なお、以上の分析過程を中心に地域住民の学習行動の類型化の過程の全体を図示したものが図2-2である。⁴⁾

図 2-2 「学習行動による地域住民類型化の手法」



(2) 学習行動因子の抽出

上述したように、学習行動に基づき地域住民の類型化を行うためには、まず、学習行動に潜在する共通因子、すなわち学習行動因子を抽出しなければならない。そのための方法として、31種の学習行動（表2-1）に対する因子分析により得た因子負荷量を提示したのが表2-2である。以下、この表に示された因子負荷量の値を解釈することにより、FACTOR 1から7までの各因子の特性を意味づけ（因子のネーミング）ていきたい。具体的には、各因子ごとに、上記2表に基づき、因子負荷量大きい順に学習行動を並べかえて提示することにより、因子の意味を読み取ってきたい。

FACTOR 1

①28. 地域清掃活動・防災活動に参加した。②25. 公民館，集会所，町民会館などに行った。③27. 地域体育祭・文化祭などに行った。④31. 地区や班・町内会の会合に出た。⑤26. 町・地区の祭りにいった。⑥29. 青少年のための活動に参加。⑦30. 地域の団体の会合に出た。⑧1. 学級・講座参加。⑨20. ボランティア活動。⑩11. 講演会行った。⑪9. 所属団体の研修会・講習会参加。⑫14. スポーツ・観戦。⑬19. スポーツ・出場。

上記の①～⑬の順番が示すように、この因子で最も因子負荷量大きい学習行動は「地域での清掃活動・防災活動に参加」。それに「公民館・・・」「地域体育祭・・・」「地区や班・町内会の会合」に行った（出た）が続く。このように因子負荷量大きい学習行動はいずれも地域活動である。また、①～⑬まで、学習する内容は異なるものの、いずれも地域を舞台として、地域の人々が主催者や参加者となって行われる学習活動であることは共通している。

従って、FACTOR 1は「地域活動因子」と名付けたい。

FACTOR 2

①2. 先生習いごと。②21. 趣味のグループで勉強。③16. 文化祭等に出場。④17. 文化祭・作品・出品。⑤1. 学級・講座参加。⑥12. 音楽会などに行く。

この因子を特徴づける学習行動は、「先生習いごと」「趣味のグループで勉強」と、いずれも明確な学習意思に支えられた学習行動である。さらに、とりわけ、「文化祭等に出場」「文化祭・作品・出品」に見られるように積極的な参加型の学習として特徴づけられる。また、いずれも集団で行う傾向が強い学習行動でもある。

従って、FACTOR 2は「集団・参加学習因子」と名付けたい。

FACTOR 3

①19. スポーツ・出場。②22. 体育・スポーツのグループ，クラブ，サークルで運動。
③14. スポーツ・観戦。

この因子の特性がスポーツに関係することはあえていうまでもないであろう。従って、FACTOR 3は「スポーツ因子」となる。

FACTOR 4

①24. 趣味や関心事について一人で勉強。②4. テレビ・ラジオで勉強。③23. 健康のため自分一人で運動。④5. 通信教育で勉強。⑤3. 図書館に行った。⑥18. 自分で書いたものを新聞、雑誌などに発表。

この因子を特徴づける学習行動は、「一人で勉強」「一人で運動」あるいは「テレビ・ラジオ」「通信教育」と、いずれも個人で行う学習である。

従って、FACTOR 4は「個人学習因子」と名付けたい。

FACTOR 5

①10. 研修や視察のための旅行。②11. 講演会に行った。③9. 所属団体の研修会・講習会参加。④20. ボランティア活動。⑤30. 地域の団体の会合に出た。⑥1. 学級・講座参加

この因子を特徴づける学習行動は「研修や視察のための旅行」「講演会」「研修会・講習会参加」である。いずれも、明確な学習意欲と目的に支えられた学習というよりも、所属する団体や地域の要請・案内に応じて参加する傾向が強い一過性で非系統的な学習である。

従って、FACTOR 5は「研修・旅行因子」と名付けたい。

FACTOR 6

①13. 展覧会に行った。②15. 美術館・博物館に行った。③12. 音楽会などに行った。④3. 図書館に行った。⑤11. 講演会に行った。

「展覧会」「美術館・博物館」「音楽会」と、この因子を特徴づける学習行動は、芸術・文化を鑑賞するという意味での学習として捉えられる。

従って、FACTOR 6は「文化鑑賞因子」と名付けたい。

FACTOR 7

①8. 免許・資格・個人で学習。②7. 免許・資格・学校で学習。

この因子を特徴づける学習行動はいうまでもなく、「資格」をとるための学習である。従って、FACTOR 7は「資格学習因子」と名付けたい。

以上の考察から、浜岡町の成人の学習行動に潜在する共通因子、すなわち学習行動因子は、各学習行動に対する因子負荷量から判断して、次のように意味づける（ネーミング）ことが妥当だと考える。

1) 「地域活動因子」、2) 「集団・参加学習因子」、3) 「スポーツ因子」、4) 「個人学習因子」、5) 「研修・旅行因子」、6) 「文化鑑賞因子」、7) 「資格学習因子」

では次に、この7種の学習行動因子をもとに、浜岡町の成人の学習行動類型を析出するためのクラスター分析に進んでいきたい。

(3) 学習行動類型の析出

7種の学習行動因子をもとにクラスター分析を行ったところ、8種のクラスター（グループ・類型）が析出された。これは、調査対象である浜岡町の成人が、その学習行動の仕方の相違により8種の人達に分けられることを意味する。はたしてその妥当性はどのようなものか。

表2-3は、クラスター分析により析出した8種の類型に対する各因子の平均点を示したものである。以下、この表に基づき各類型の概要を把握し、8種の類型にわけることの妥当性を検討していきたい。

表2-3 「学習行動類型の行動因子の平均得点」

因子 類型	①地域 活動	②参加 学習	③スポ ーツ	④個人 学習	⑤研修 ・旅行	⑥文化 鑑賞	⑦資格 学習
類型 A	<u>0.37</u>	-0.49	-0.27	-0.44	-0.57	-0.07	-0.37
類型 B	<u>0.45</u>	-0.40	-0.02	-0.26	<u>0.93</u>	-0.52	-0.46
類型 C	<u>0.42</u>	-0.41	<u>0.99</u>	-0.16	0.29	<u>0.89</u>	-0.46
類型 D	-0.52	-0.36	<u>0.36</u>	<u>0.57</u>	-0.24	-0.44	-0.38
類型 E	<u>-1.30</u>	-0.18	-0.39	-0.31	-0.18	-0.15	-0.28
類型 F	0.11	-0.30	0.16	0.11	0.12	0.03	<u>1.45</u>
類型 G	0.28	<u>1.36</u>	0.11	0.01	0.13	0.10	-0.03
類型 H	0.36	0.46	-0.57	<u>1.00</u>	0.45	0.61	-0.50

類型A

この類型の因子得点の平均をみると、「地域活動因子」を除き他の因子は全てマイナスである。ということは、地域活動には参加するものあとの学習行動にはほとんど参加していないグループであることがわかる。また、地域活動もその平均点は0.37であり、類型Bの0.45、類型Cの0.42より低い。このことは、類型Aに属する人達は、類型Bや類型Cに属する人達ほどには地域活動に対して積極的ではないことを意味する。

類型B

この類型の因子得点を見ると、「地域活動因子」が0.45と8類型中で最も高い。さらに、なによりもこの類型を特徴づけるのは「研修・旅行因子」が0.93と最も高いことである。他方、あとの因子の平均点が全てマイナスであることも注目すべきであろう。

すなわち、類型Bに属する人達は、地域活動を主体的に担う人達であり、また自分の属するグループや会社・地域等が主催する研修や旅行に積極的に参加する人達であると考えられる。

ただ、他の学習行動因子はマイナスである。特に「集団・参加学習」「文化鑑賞」「資格学習」の得点が他の類型に比較して低い。この3因子は狭い意味での学習行動に関わり、またそれは積極的な学習意欲を前提とする学習行動である。

従って、この類型に属する人達は地域活動や研修・旅行には意欲的に参加するが、様々なことを学ぶこと自体に対しては消極的なタイプの人達であることが想像できる。

類型C

この類型の因子得点は「スポーツ」が0.99、「文化鑑賞」が0.89と8類型の中で最も高い。「地域活動」も0.42で類型Bに次いで高い。「研修・旅行」も0.29と特に高いわけではないがプラスである。

従って、スポーツに対して極めて意欲的。また、地域活動もかなり主体的に参加し、研修や旅行にもつきあう。だが、展覧会・美術館等にでかけて鑑賞する程度の学習は行っているが、積極的に目的をもって学ぶという意味での学習行動はあまり行っていないといえる。

類型D

因子得点を見ると、プラスは「スポーツ」の0.36と「個人学習」の0.57である。特に「個人学習」は類型Hの1.00に次いで2番目の高さである。しかし、「地域活動」は-0.52と逆に低い方から2番目の値である。

従って、テレビや通信教育等により個人で学習はしているが、スポーツを除き、他の学習行動には消極的。特に、地域活動はほとんど参加していない人達である。

類型E

この類型の因子得点の平均は全てマイナス。特に、「地域活動」は-1.30と極端に低い。

この調査が前提とする学習行動にはほとんど参加しておらず、なかでも地域活動は拒否するといってもよいであろう。しかし、後にふれるが、この類型は全体の13.1%であり、決して少数派ではない。地域における生涯教育を考える上でもっとも課題となる人達かもしれない。

類型F

この類型の因子得点を見ると、「資格学習」が1.45と非常に高い。他の学習は、「参加学習」が-0.30であることを除き、全てプラスではあるが、その数値はいずれも低い。資

格をとる学習にのみ積極的な人達であるといえる。

類型G

この類型の因子得点は「資格学習」の-0.03を除きあとは全てプラスである。特に、7種の因子の中で最も明確な意思と目的により積極的に集団的な学習行動を示す因子であると思われる「集団・参加学習」が1.36と他の類型に比較して非常に高い数値を示している。

全般的に本調査が前提とする学習行動に参加する割合が高く、とりわけ集団で積極的な学習活動を進めている人達であると思える。

類型H

この類型の因子得点では、「スポーツ」が-0.57、「資格学習」が-0.50とマイナスでその数値も高い。しかし、他の因子は全てプラス、その数値もかなり高い方である。特に「個人学習」は1.00と最も高い。スポーツや資格を取る学習には関心を示さないが、全般的に学ぶことについては積極的であり、特に、個人でしっかり学んでいる人達であるといえる。

以上、クラスター分析により析出された学習行動類型の概要を、因子得点の平均的に注目することから考察してきた。その結果、8種の類型はそれぞれかなり異なる特性を有し、その意味で8類型にわけるとは妥当であると考えられる。

そこで次に、各種属性に関する質問や学習行動とのクロス集計によりその特性をより詳細に考察することから、各類型の意味づけ（ネーミング）を試みたい。

3. 浜岡町成人の学習行動類型の特性

表3-1は、各学習行動類型と①性別、②年令、③学歴、④職業、⑤農業との兼業状況、⑥家族構成、⑦同居している子供、⑧地域、⑨浜岡に住んでいる年数、⑩仕事以外に付いている役職、とのクロス集計に基づき、その顕著な特性を一覧表にしたものである。また、表3-2は、同じく各学習行動類型と31種の学習行動を行った人達とのクロス集計である。

表3-1 「学習行動類型の属性上の特徴」

属性 類型	人数 (%)	性別	年令	職業	兼業 状況	学歴	家族構成	同居 子供	地域	浜岡に 住んで	仕事外 全体48.2% 役職(男54.3, 女39.8)
A	166(19.8)	男<女 (62.7)	30後半	工員・ パート	農業以 外	中卒	5人 二世 代	就学児 乳児	高松	6~10 31以上	36.1 (35.1, 38.5)
B	63(7.5)	男<女 (65.1)	中高年	農業 サービス	農主	中卒	7人上 三世 代	高校生 未婚	新野	31以上	65.1 (105.0, 48.8)
C	52(6.2)	男>女 (83.5)	30後半	事・工 農・専	自分無 専・兼	高・大 卒	7人上 三世 代	小・中	朝比奈	16以上 が8割	90.3 (100.0, 77.8)
D	63(11.1)	男>女 (82.4)	20~30 前半	事・専 専主婦	農なし	大卒	2~3人 1~2	乳幼児	佐倉 比木	1年以 下~5	31.1 (31.0, 31.4)
E	110(13.1)	男<女 (54.5)	20代	無職 専主9割	農業外	男大 女高	男1人 女5人	就学前 6割 女未婚	池新田 佐倉	1~5 21~30	13.6 (19.5, 11.7)
F	148(17.6)	男>女 (68.9)	20~30	工員 専門	農業外	高卒	2~3 世代	就学児	佐倉	16年以 上	52.7 (56.9, 48.8)
G	147(17.5)	男<女 (83.7)	中高年	個人商 主婦	自家用 専業	中卒	2~4 世代	未婚男 就学児	比・朝 新野	11年以 上	54.4 (59.1, 61.8)
H	61(7.3)	男<女 (59.0)	50代以 上	農・主婦 主・個・専	自家用 専業	大卒	2人 2世代	未婚男 女	池新田	31年以 上	57.4 (95.8, 50.0)

表3-2 「学習行動類型×学習行動」

全体

学習行動	合計	1 家庭教師に 参加したか	2 習い たか	3 図書館 に行った か	4 テレ ビで 勉強した か	5 通信教 育で 勉強した か	6 カル ナー で 勉強した か	7 免許 ・資格 のため 学校に 通った か	8 免許 ・資格 のため 個人 塾に 通った か	9 職場 での研 究会に 参加し たか	10 研修 ・修学 旅行に 行った か	11 講習 会に 行った か	12 音楽 会に 行った か	13 展覧 会に 行った か	14 スポーツ 大会に 参加し たか	15 美術館 や博 物館 に行 ったか	16 文化 祭や 祭に 参加 した か	17 展覧 会や 文化 祭に 参加 した か	18 俳句 ・短 歌を 発表 した か	19 スポーツ 大会 に出 場し たか	20 社会 活動 に参 加し たか	21 趣味 のグ ル プに 参加 した か	22 スポ ーツ で運 動し たか	23 健康 のため に運 動し たか	24 趣味 のた まり で遊 んだ か	25 町や 地区 の民 生館 に行 った か	26 町や 地区 の民 生館 に行 った か	27 地域 の文 化祭 に参 加し たか	28 地域 の文 化祭 に参 加し たか	29 少年 の活 動に 参加 した か	30 地域 の活 動に 参加 した か	31 地区 や町 の民 生館 に参 加し たか
合計	840	258	191	190	127	56	22	174	179	478	884	437	366	389	424	304	124	69	22	406	276	226	215	840	688	669	561	526	319	370	531	
A	100.0	30.7	22.7	22.0	15.1	6.5	2.6	20.7	21.3	56.3	89.8	52.0	46.0	46.3	50.5	36.2	14.6	8.2	2.6	48.3	32.9	26.9	25.6	100.0	81.9	82.5	68.3	62.5	38.0	44.0	68.9	
B	100.0	17.5	0.0	16.9	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	12.7	22.9	36.5	37.4	24.7	4.2	0.0	0.0	0.0	40.4	16.9	6.6	13.3	100.0	94.0	100.0	78.3	74.7	42.8	38.7	69.2	
C	100.0	55.6	0.0	6.3	7.1	1.9	0.0	0.0	1.6	84.1	79.4	53.1	36.1	14.3	52.4	14.3	3.2	0.0	0.0	54.0	20.2	21.2	22.6	69.5	56.5	56.9	63.5	62.5	46.0	49.0	54.0	
D	100.0	42.3	0.0	48.1	11.5	3.8	0.0	5.8	1.9	88.5	88.5	88.5	73.1	38.2	84.6	67.3	19.2	3.8	0.0	100.0	42.3	26.9	99.4	28.9	100.0	98.1	80.4	92.3	78.9	69.2	55.8	80.8
E	100.0	7.5	8.6	16.1	31.2	10.8	1.1	4.3	7.5	38.7	30.1	31.2	20.4	16.1	50.5	21.5	3.2	2.2	3.2	59.1	19.4	15.1	48.4	36.6	100.0	88.8	63.4	47.3	38.7	16.1	22.6	50.5
F	100.0	30.4	5.4	24.3	12.2	12.8	4.7	79.7	10.3	70.3	48.0	58.5	44.6	50.1	43.2	11.5	8.1	3.4	58.1	26.4	20.3	46.6	44.7	100.0	88.5	81.1	70.3	71.6	46.6	48.0	70.9	
G	100.0	91.0	140.0	26	13	10	0	38	31	115	79	108	103	86	86	86	38	2	52	78	86	86	44	147	139	138	128	111	69	99	100	
H	100.0	31.0	26.0	27.2	17.7	8.6	0.8	23.9	21.1	78.2	49.7	70.1	70.1	63.7	57.9	48.3	40.8	23.8	1.4	66.8	59.1	63.3	46.3	29.9	100.0	94.6	93.5	87.1	73.5	48.9	67.3	68.0

男

学習行動	合計	1 家庭教師に 参加したか	2 習い たか	3 図書館 に行った か	4 テレ ビで 勉強した か	5 通信教 育で 勉強した か	6 カル ナー で 勉強した か	7 免許 ・資格 のため 学校に 通った か	8 免許 ・資格 のため 個人 塾に 通った か	9 職場 での研 究会に 参加し たか	10 研修 ・修学 旅行に 行った か	11 講習 会に 行った か	12 音楽 会に 行った か	13 展覧 会に 行った か	14 スポーツ 大会に 参加し たか	15 美術館 や博 物館 に行 ったか	16 文化 祭や 祭に 参加 した か	17 展覧 会や 文化 祭に 参加 した か	18 俳句 ・短 歌を 発表 した か	19 スポーツ 大会 に出 場し たか	20 社会 活動 に参 加し たか	21 趣味 のグ ル プに 参加 した か	22 スポ ーツ で運 動し たか	23 健康 のため に運 動し たか	24 趣味 のた まり で遊 んだ か	25 町や 地区 の民 生館 に行 った か	26 町や 地区 の民 生館 に行 った か	27 地域 の文 化祭 に参 加し たか	28 地域 の文 化祭 に参 加し たか	29 少年 の活 動に 参加 した か	30 地域 の活 動に 参加 した か	31 地区 や町 の民 生館 に参 加し たか
合計	357	99	30	83	61	26	11	96	118	228	171	184	125	161	207	152	88	21	206	91	65	148	108	146	288	272	225	212	107	118	246	
A	100.0	18.5	8.4	23.9	17.1	7.3	3.1	28.9	33.1	62.5	47.9	51.5	35.0	45.1	57.4	42.6	10.6	2.1	2.8	57.7	23.5	18.2	41.5	30.0	80.7	76.2	80.7	62.1	38.9	31.1	68.9	
B	100.0	8.8	0.0	15.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	31.6	24.6	24.6	26.3	31.6	36.8	31.6	3.5	0.0	0.0	49.1	7.0	3.3	15.8	17.5	5.3	94.7	63.0	62.5	70.2	31.8	22.9	62.5
C	100.0	40.0	0.0	5.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.0	95.0	100.0	90.0	25.0	5.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	45.0	15.0	25.0	50.0	25.0	85.0	60.0	60.0	60.0	35.0	55.0	95.0
D	100.0	27.3	0.0	42.4	18.2	6.1	0.0	3.0	93.9	72.7	84.8	63.6	33.9	81.8	75.9	21.2	0.0	0.0	0.0	100.0	42.4	21.2	87.9	27.3	33.3	87.0	87.9	69.7	60.6	51.5	61.8	
E	100.0	2.1	4.0	10.0	1.4	1.4	0.0	4.0	6.8	28.9	24.6	17.9	9.9	15.2	15.2	1.7	3.4	1.7	3.4	67.2	17.2	13.8	55.2	37.9	37.9	74.1	67.2	43.1	17.2	17.2	30.3	
F	100.0	2.4	2.4	14.6	0.0	0.0	0.0	0.8	12.2	39.0	19.5	36.6	31.7	39.0	34.1	36.6	7.3	2.4	2.4	19.5	0.0	3.3	17.1	22.0	34.1	28.3	14.6	4.9	2.4	2.4	9.0	
G	100.0	20.8	1.0	26	18	13	0	7	82	75	50	58	36	52	66	47	12	9	4	62	34	16	50	28	40	88	81	70	70	36	48	72
H	100.0	40.9	86.4	22.7	22.7	13.6	9.1	40.9	40.9	72.7	45.5	58.1	50.0	72.7	50.0	58.1	27.3	27.3	4.5	63.6	31.8	50.0	58.1	40.9	68.2	86.4	86.4	63.6	68.2	16.2	36.4	68.2

女

学習行動	合計	1 家庭教師に 参加したか	2 習い たか	3 図書館 に行った か	4 テレ ビで 勉強した か	5 通信教 育で 勉強した か	6 カル ナー で 勉強した か	7 免許 ・資格 のため 学校に 通った か	8 免許 ・資格 のため 個人 塾に 通った か	9 職場 での研 究会に 参加し たか	10 研修 ・修学 旅行に 行った か	11 講習 会に 行った か	12 音楽 会に 行った か	13 展覧 会に 行った か	14 スポーツ 大会に 参加し たか	15 美術館 や博 物館 に行 ったか	16 文化 祭や 祭に 参加 した か	17 展覧 会や 文化 祭に 参加 した か	18 俳句 ・短 歌を 発表 した か	19 スポーツ 大会 に出 場し たか	20 社会 活動 に参 加し たか	21 趣味 のグ ル プに 参加 した か	22 スポ ーツ で運 動し たか	23 健康 のため に運 動し たか	24 趣味 のた まり で遊 んだ か	25 町や 地区 の民 生館 に行 った か	26 町や 地区 の民 生館 に行 った か	27 地域 の文 化祭 に参 加し たか	28 地域 の文 化祭 に参 加し たか	29 少年 の活 動に 参加 した か	30 地域 の活 動に 参加 した か	31 地区 や町 の民 生館 に参 加し たか
合計	458	195	159	106	64	29	11	73	59	250	155	248	225	211	146	88	48	12	192	180	155	139	101	139	378	374	325	300	206	246	271	
A	100.0	43.0	34.7	25.0	14.0	6.3	2.4	15.9	12.9	52.2	33.8	54.1	48.7	49.1	31.9	18.6	10.5	2.6	41.9	39.3	30.3	30.3	22.1	30.3	82.5	81.7	71.0	43.0	53.1	45.0	64.1	
B	100.0	22.1	0.0	18.3	1.9	0.0	0.0	2.9	1.0	24.0	6.7	23.1	41.3	43.3	37.5	22.1	4.8	0.0	0.0	35.6	23.1	7.7	15.4	11.5	7.7	98.3	97.9	76.9	44.0	44.2	61.5	
C	100.0	63.4	0.0	7.3	14.6	2.4	0.0	0.0	0.0	77.8	68.3	80.4	41.9	19.5	43.9	17.1	4.9	0.0	0.0	58.5	70.7	36.6	36.0	26.8	7.3	90.2	87.8	66.9	62.9	53.7	60.2	85.4
D	100.0	72.2	0.0	55.6	6.0	0.0	0.0	16.7	7.0	78.4	44.4	94.8	100.0	100.0	88.9	50.0	15.8	11.1	0.0	100.0	44.4	38.9	94.0	27.8	22.2	100.0	100.0	88.9	86.7	77.8		
E	100.0	3.6	4.0	14.3	9.5	6.0	0.0	1.1	1.6	8.4	11.4	11.4	17.1	14.0	14.3	5.1	1.1	1.1	1.1	14.7	8.6	6.3	12.2	12.2	21.0	19.1	11.1	11.1	11.1	11.1	11.1	
F	100.0	5.0	8.3	6.7	5.0	3.3	0.0	1.7	1.7	11.7	8.7	16.7	26.7	18.2	8.3	18.3	3.3	6.7	3.3	1.7	5.0	3.3	5.0	10.0	10.0	23.3	40.0	16.7	6.7	3.3	10.0	
G	100.0	56.1	17.1	24.4	22.0	14.6	2.4	87.8	78.0	65.9	43.9	73.2	73.2	53.7	65.9	36.6	12.2	7.3	2.4	53.7	43.9	29.3	43.9	24.4	29.3	85.4	85.4	75.6	69.4	58.5	70.9	
H	100.0	65.9	63.9	55.6	38.9	13.9	5.2	2.8	5.6	80.6	69.7	84.4	86.1	86.1	50.0	61.1	38.9	25.0	2.9	19.4	58.3	21.2	2.8	38.3	34.4	97.2	88.9	86.1	80.6	58.6	86.1	

成人の学習行動の分析に関する基礎的研究(Ⅲ)

以下、表3-1からは属性上の特性を、表3-2からは学習行動因子の平均点の差で捉えた特徴との関係を確認しながら、8種の類型に属する人達の特性を考察していきたい。なお、類型の特性を簡略に明示するために、二つの表に示された各クロス集計の結果に基づく顕著な傾向のみ指摘し、特に必要と思われる場合を除き数値の記述をできるだけ省略すること前もって記しておきたい。⁵⁾

(1) 類型A・・・「がんばる母さんグループ」

表3-1に示されるように、この類型に属する人は166人で全体の19.65%で最も大きいグループである。そしてその6割が女性。特に30代後半で就学児のいる女性が多い。6割以上が浜岡に住んで20年以上だが、職業では工員やパートで勤める人が多く、農業に関わる人は少ない。また、浜岡町の中では町部になる高松地区に住む人に特徴的。要約すれば、地元の人で町部に住み子供を小学校にやりながらパートにも頑張る30代後半の主婦が典型ということになるであろう。

それゆえ、子育てを含め家族の世話で一日の大半を過ごす主婦がこの類型の中心を占めるといえよう。そのためか、表3-2を見ると、いずれの項目も低い数値が続き、ほとんどこれといった学習活動はやっていないことがわかる。ただ公民館にはよく行き、地域での祭りには参加。また、町内会や清掃活動にも参加するが、こちらはやや数値が下がっている。いわば近所付き合い程度と言うわけか。

以上の学習行動上の傾向から、学習行動因子の平均得点が、地域活動因子を除き全てマイナスであったことの意味が確認できよう。ただ、学習への参加度の低さの原因は、学習意欲自体の欠如というよりも、主婦として最も忙しい年代の人達が属するグループであることに見出されよう。この類型を「がんばる母さんグループ」と名付けた理由である。

(2) 類型B・・・「活躍する役職おじさんグループ」

やはり女性が6割以上占めるグループだが、全体の7.5% (63人) と類型Aに比べれば実数が少ないことから、男女の比率の差はそう大きくないといえよう。逆に、他の属性上の特性から判断して、この類型を特色づけるのはむしろ男性と考えられる。

まず、この類型の特性を表3-1から拾うと、浜岡に生まれて学歴は中卒が多く、専業農家を営み、家族は三世代で7人以上、高校生や結婚前の子供を抱えてがんばる中高年の男女ということになる。

しかし、この類型を最も特徴づけるのは、表3-1の右端の項目である「仕事以外の役職」を持つ人が非常に多いことである。とりわけ男性は、人数に対する役職の総和の比率が100%を越える。ということは、一人で複数の役を担う人もいることが想像できる。

従って、類型Bを代表する人のプロフィールは、代々浜岡で農業を営み、地域の有力者として活躍する年配の男性ということになるであろう。これが「活躍する役職おじさんグループ」と名付けた理由である。

ところで、表3-2の学習行動に関しては、当然のことながら、地域の有力者であることを反映して地域活動には究めて熱心で、町内や地域の団体の会合には積極的に参加。とりわけ、地域・組合等が主催する研修会・講演会あるいは研修や視察のための旅行への参加率は高い。それも男性の場合、ほぼ全員が参加している。

しかし、資格をとる、文化祭に出る、展覧会に行く等の消極・積極を問はず具体的な学習は全くといってよいほどやっていない。学習行動因子の平均点において、「地域活動因子」と

「研修・旅行因子」のみ高く、あとは全てマイナスであったことの意味が確認できよう。

(3) 類型C・・・「頼れるお父さんグループ」

全体の6.2%と数は最も少ないが、類型Bと異なり、30代後半の男性が最も多く学歴も高い。仕事も農業以外が主で、家族は三世代、7人以上だが、30代後半という年代を反映してか子供は小・中学生が多い。ただ、浜岡に住んで16年以上が8割と浜岡生まれが多く、男性のほぼ全員が仕事以外の役に付いていることは類型Bと同様である。自分ではやっていないが農地を持っている人も多い。

この類型の代表は、浜岡生まれで地域で積極的に活躍する30代後半の男性、いわば、これからの浜岡を担うリーダー達といえる。「頼れるお父さんグループ」と名付けた理由である。

他方、この類型の学習行動因子の平均点は「地域活動因子」と「スポーツ因子」と「文化鑑賞因子」がプラスの高い数値をしめしていた。そのことを反映してか、スポーツの大会には全員が出場しているのをはじめスポーツに対してはいずれの項目も8類型中最も高い値を示している。また、班・町内会への出席をはじめとして地域活動への参加率はいずれも高く、主体的に活動していることが想像される。

しかし、展覧会・美術館等に出かけて鑑賞したり職場の研修や講習会には参加するものの、先生について何か勉強したり、資格を取るためや文化祭に出品するといった明確な意図のもとに積極的に行う学習はほとんど行っていない。上記の3種の因子以外の因子の平均点が全てマイナスであった理由であろう。

(4) 類型D・・・「新住の若い専門家グループ」

全体の11.1%だが、その6割が男性。20代から30代前半で半数を占め、浜岡に住んで5年以内の比率が最も高いグループである。高学歴で事務・専門職系の職業についている人が多い。仕事以外の役職をもつ人は少なく地域への関心が低いことが想像される。また、年令が若いせいか、独身もしくは夫婦のみかそれに幼児一人が加わるという家庭が多いようだ。

仕事のために浜岡に住むようになった高学歴の若い男性がこの類型の典型といえよう。「新住の若い専門家グループ」と名付ける理由である。

学習行動では、因子得点の平均が「スポーツ」と「個人学習」のみプラスで、特に後者の値が高かったことを反映して、自分の趣味や関心のあることを一人で勉強しているが7割。テレビや通信教育等により学習している人も比較的多い。その意味で個人で学習するタイプ。逆にスポーツを除き、文化祭や趣味のグループなど集団で行う学習には消極的。また展覧会などにもあまり行っていない。特に、地域での活動や行事への参加率はおしなべて低いといえる。

(5) 類型E・・・「るんるんギャル・ママグループ」

全体の13.1%で、20代の女性の比率が最も多いグループである。このことを反映してか、店員・サービス業に従事する人と乳幼児を抱えた専業主婦が多い。そして、そのためか仕事以外の役職を持つ人の比率が8類型中最も低い。また、浜岡在住20年代と5年以内の人の比率が高い類型でもある。

従って、浜岡生まれの結婚前の女性と結婚のために浜岡に住むようになった若い主婦がこの類型の典型といえよう。

学習行動については、因子得点の平均では全ての因子の平均点がマイナスで、とりわけ「地域活動因子」は極めてマイナスの値が高かった。このことは、表3-2のこの類型の欄の数値がほとんど全てにわたり非常に低い数値であることにより確認できよう。いわばこの調査が前

提とする学習行動にはほとんど参加しない人達により構成されたのがこの類型といえよう。特に、地域活動に関する項目は他の類型の数値に比較して極端に低いといわざるをえない。地域活動に関しては、関心が低いというより拒否に近いと考える。

このように特徴を捉える時、この類型に属する人達は、一見、学ぶことに意欲を持たず、地域からも離れて勝手気儘に生きている人達のように思える。しかし、それは誤りであろう。

その理由として、先ず、31種の学習行動は、あくまで地域社会において生涯学習を進めるための前提として、地域における住民の学習の実態を明らかにすることを意図して考察された項目であることがあげられる。いいかえれば、本調査が前提とする学習以外にも学習のありかたは当然存在するわけである。

また、地域に対する拒否感の意味も、若い女性を典型にこの類型に属する人に対して地域社会がどのようなメリットを与えているかを明らかにすることなしには解明できないであろう。このグループの人達の多くは、既存の地域活動は負担になってもらえ得るものはないと考えているかもしれないからである。あるいは、浜岡に住むようになって日の浅い若い主婦が多いことから、地域活動の存在や参加の方法自体を知らない可能性もあるといえよう。

ただ、いずれにせよ、このグループには結婚前の女性や最近浜岡に住むようになった乳幼児を抱えた母親が多い。ということは、子育ての問題一つを取り上げて地域社会の果たすべき役割は大きく、地域での学習活動の必要性は高いといえよう。加えてその数も全体の13.1%と決して少数派ではない。地域における生涯教育を考える上で今後もっとも課題となる類型であると考える。

以上のことから、このグループには、現在は地域とほとんど関わりをもたないがある意味で時代の先端を生きている人達が属していること。またその意味で今後この人達をどう捉えるかが地域における生涯教育推進のための鍵の一つであるということ。加えて、若い女性という未来の住民を育てる人達が属すること。これらのことを含めて、その可能性を評価する意味も込めて「るんるんギャル・ママグループ」と名付けたい。

(6) 類型F・・・「土地っこ若い衆グループ」

全体の17.6%で類型Aに次いで大きく、20代の男性が最も多いグループである。また浜岡に住んで16年以上が7割で、その約半数が一時期浜岡を離れた人達である。学歴は高卒、仕事は工員・労務系に次いで事務・技術系と農業がほぼ同率。

浜岡育ちで地域にも愛着をもつ若い男性が典型といえる。「土地っこ若い衆グループ」と名付けた理由である。

他方、この類型の因子得点の平均の特徴は、「資格学習」の値が非常に高く、「集団・参加学習」のみマイナスで、他の因子は値は低いものの全てプラスであったことである。従って、表3-2においても、資格を取る学習に対して「学校」「個人」いずれの場合にも8割前後の人達が行っていることが確認できる。

加えて、職場での研修や講習会にも6割から7割の人が参加。地域での活動においても公民館に行った人と祭り参加した人が8割以上、町内会の会合にも7割の人が参加している。この点は、同じく、若い人の属するグループである類型DとEとはかなり異なる傾向を示しているといえる。その理由として、この類型には、浜岡生まれの若い男性が多いことが影響していると考えられる。このことは、このグループが地域において生涯学習を進める際の青年層における担い手となる可能性を示唆しているともいえよう。

なお、上記以外の学習行動への参加率も他の類型に比較して全般的に特に低くはないが、資格をとること以外では先生について勉強や展覧会出品といった参加型の積極的な学習をしてはいないこともまた確認できる。

(7) 類型G・・・「活躍する中年婦人グループ」

全体の17.5%と類型Fとほぼ同じ大きさだが、8割が女性でその6割が40才以上の人達で構成されているグループである。自営もしくは農地を持っている人の比率が高く、結婚の為に浜岡へ来て20年以上たった人が多い。仕事以外の役職を持つ人も多く、特に女性の方が役職を持つ割合が高い唯一の類型である。このことから、地域への関心も高いと考えられる。

パートや家業の合間をぬって、婦人会をはじめ地域の活動の中心者として活躍する中年以上の主婦が典型といえよう。従って、「活躍する中年婦人グループ」と名付けたわけである。

因子得点の平均では、「資格学習」を除き全てプラスの値で、特に「集団・参加因子」の値が高かった。表3-2においても、9割近くが先生について学習しているのを代表に全般的に本調査が前提とする学習行動への参加率が最も高いグループであることが読み取れる。とりわけ、他の類型に比較して、文化祭に作品を出品するといった能動的・積極的な学習活動を進めている人達が多いことも確認できる。ただ、中年以上の女性が多いせいか資格を取る学習には消極的。又、個人で行う学習を続けている人の率も高くないこともまた確認できる。

(8) 類型H・・・「インテリシルバークラスグループ」

全体の7.3%と少数派でその7割近くが50代以上のグループ。高学歴者が多く、職業も経営・管理、自営、専門職の率が高い。特に男性のほぼ全員が仕事以外の役職を持つ。浜岡在住30年以上が6割。

現在の浜岡をリードする高年令の男性が典型。そのため、「インテリシルバークラスグループ」と名付けたわけである。

学習行動では、図書館へ行った人が5割、テレビで勉強が4割、同人誌などに作品を発表が2割、そして9割以上の人々が趣味を一人で勉強。このように全般的に学ぶことについては積極的であり、特に個人でしっかり学んでいる人達である。ただ、高齢者が多いことから一人で運動を続けている人は多いがスポーツや資格のための学習を行っている人は非常に少ない。

これらはいずれも、「個人学習因子」の値が大きく「スポーツ」と「資格学習」の因子がマイナス値である因子得点の平均値の特性を確認するものであることはあえて指摘するまでもないであろう。

4. 今後の課題

本稿において、我々は、地域において生涯教育を進行させるための基礎研究として、学習行動をもとにした地域住民の類型化の方法を明らかにするために、浜岡町の成人を対象とした学習行動調査の結果に対して、因子分析とクラスター分析を試みた。

その結果、学習行動因子として、

「地域活動」「集団・参加学習」「スポーツ」「個人学習」「研修・旅行」

「文化鑑賞」「資格学習」

の7因子を抽出した。そしてそれをもとに8種の学習行動類型を析出することができた。加えて、学習行動類型と属性や学習行動とのクロス集計から得た特徴をもとに各類型を次のように意味づけ(ネーミング)た。

- 類型A「がんばる母さんグループ」 類型B「活躍する役職おじさんグループ」
 類型C「頼れるお父さんグループ」 類型D「新住の若い専門家グループ」
 類型E「るんるんギャル・ママグループ」 類型F「土地っこ若い衆グループ」
 類型E「活躍する中年婦人グループ」 類型G「インテリシルバーグループ」

本来ならば、これらの類型と他の質問結果とのクロス集計等を進めることから、より詳細に各類型の特性を明らかにし、それに基づき、地域において生涯教育の観点から教育機会を制度的に整備するための課題を考察しなければならない。しかし、本稿では学習行動の類型化のプロセスを明示するに止め、上記の課題は稿を改めたい。⁶⁾

注記

- 1) 「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究 (I) - 御殿場市における生涯教育調査を中心に -」『静岡大学教育学部研究報告 (教科教育編) 第15号』1983年
- 2) 「成人の学習行動の分析に関する基礎的研究 (II) - 土肥町における社会教育調査を中心に -」『静岡大学教育学部研究報告 (人文・社会科学編) 第37号』1986年
- 3) 学習行動の項目が31種になったのは、従来「地区の祭りや体育祭・文化祭などにいきましたか」であったのを、浜岡町の特性から「町や地区の祭りにいきましたか」「地域の体育祭・文化祭などにいきましたか」の二つにわけたためである。
- 4) その他の分析上の留意点

・本分析では、距離としては次に示す「ユークリッドの距離」を用いた。

$$\text{ユークリッドの距離} : d_{\alpha\beta} = \sqrt{\sum_{i=1}^n (X_{\alpha i} - X_{\beta i})^2}$$

・クラスター分析の手法としてはワード法を採用した。ワード法とは、「サンプルを順次結合してグループ化していくというように取り扱うために、それぞれのサンプルがもとの状態でもっていた情報を多かれ少なかれ失うことになる」という考えのもと、この情報損失量が最小になるようにグループ化していく方法である。

・因子とクラスターの数の特定とその解釈に際しての解釈者の主観性

潜在的な共通因子が幾つあり、その因子がどのような性格をもっているかの判断は、多分にデータを解釈する者の経験や調査の目的や意図に依存することは否定できない。もちろん、統計学上の固有値や累積寄与率等の数値を基礎にするものの、最終的な判断は解釈者自身の主観的な妥当性の基準に依存するといっても過言ではない。例えば、本調査の場合、因子を6種に止めるか、「資格学習」を分離して7種にするかの判断は、コンピューターによるデータではなく、御殿場や土肥調査の経験をもとに資格学習は一定の特性をもつと判断したためである。

また、このことはクラスター分析の場合も同様である。

- 5) 各学習行動類型と属性とのクロス集計表の数値は末尾に資料として添付した。
- 6) 末尾に資料12.として、「学習行動による住民類型のネーミング一覧」をイメージ画を加えて添付した。

資料

1. 「年 齢」

年齢(5才 きざみ) 類型	合 計	20~	25~	30~	35~	40~	45~	50~	55~	60~	65~	70才	無回答
		24才	29才	34才	39才	44才	49才	54才	59才	64才	69才	以上	
合 計	840 100.0	64 7.6	78 9.3	110 13.1	135 16.1	85 10.1	67 8.0	69 8.2	69 8.2	66 7.9	70 8.3	1 0.1	26 3.1
A	166 100.0	7 4.2	14 8.4	20 12.0	34 20.5	24 14.5	13 7.8	14 8.4	11 6.6	13 7.8	11 6.6	0 0.0	5 3.0
B	63 100.0	1 1.6	0 0.0	8 12.7	9 14.3	6 9.5	8 12.7	5 7.9	5 7.9	9 14.3	9 14.3	1 1.6	2 3.2
C	52 100.0	1 1.9	2 3.8	8 15.4	17 32.7	9 17.3	4 7.7	5 9.6	1 1.9	1 1.9	3 5.8	0 0.0	1 1.9
D	93 100.0	12 12.9	15 16.1	17 18.3	14 15.1	8 8.6	4 4.3	5 5.4	4 4.3	5 5.4	9 9.7	0 0.0	0 0.0
E	110 100.0	14 12.7	23 20.9	9 8.2	7 6.4	7 6.4	6 5.5	5 4.5	9 8.2	7 6.4	13 11.8	0 0.0	10 9.1
F	148 100.0	23 15.5	13 8.8	26 17.6	22 14.9	13 8.8	11 7.4	9 6.1	14 9.5	6 4.1	6 4.1	0 0.0	5 3.4
G	147 100.0	6 4.1	10 6.8	20 13.6	19 12.9	16 10.9	18 12.2	17 11.6	13 8.8	17 11.6	8 5.4	0 0.0	3 2.0
H	61 100.0	0 0.0	1 1.6	2 3.3	13 21.3	2 3.3	3 4.9	9 14.8	12 19.7	8 13.1	11 18.0	0 0.0	0 0.0

2. 「職 業」

職 業 類 型	合 計	事務	工 員	店 員	農林漁	経営者	個人商 店・個 人企業 など の自 営	専門職	主婦	主婦	主婦	学 生	無 職	その他	無回答
		技術系 従 事	労務系 従 事	サ-ビス 系従事	業従事	管理職	自由業	(家事 専 業)	(家業 手伝い)	(オ-ト 内 職)					
合 計	840 100.0	94 11.2	127 15.1	51 6.1	106 12.6	27 3.2	52 6.2	53 6.3	58 6.9	51 6.1	75 8.9	0 0.0	60 7.1	32 3.8	54 6.4
A	166 100.0	15 9.0	33 19.9	12 7.2	12 7.2	3 1.8	8 4.8	5 3.0	15 9.0	8 4.8	22 13.3	0 0.0	15 9.0	5 3.0	13 7.8
B	63 100.0	3 4.8	3 4.8	8 12.7	21 33.3	2 3.2	1 1.6	0 0.0	1 1.6	6 9.5	7 11.1	0 0.0	4 6.3	2 3.2	5 7.9
C	52 100.0	7 13.5	9 17.3	3 5.8	9 17.3	3 5.8	3 5.8	6 11.5	1 1.9	3 5.8	4 7.7	0 0.0	1 1.9	2 3.8	1 1.9
D	93 100.0	19 20.4	15 16.1	2 2.2	7 7.5	4 4.3	6 6.5	10 10.8	10 10.8	3 3.2	5 5.4	0 0.0	7 7.5	3 3.2	2 2.2
E	110 100.0	15 13.6	18 16.4	9 8.2	9 8.2	2 1.8	5 4.5	4 3.6	11 10.0	2 1.8	5 4.5	0 0.0	14 12.7	2 1.8	16 14.5
F	148 100.0	19 12.8	29 19.6	8 5.4	18 12.2	6 4.1	12 8.1	15 10.1	0 0.0	6 4.1	11 7.4	0 0.0	5 3.4	10 6.8	9 6.1
G	147 100.0	12 8.2	15 10.2	5 3.4	18 12.2	4 2.7	12 8.2	7 4.8	16 10.9	17 11.6	17 11.6	0 0.0	11 7.5	7 4.8	6 4.1
H	61 100.0	4 6.6	5 8.2	4 6.6	12 19.7	3 4.9	5 8.2	6 9.8	4 6.6	6 9.8	6 9.8	0 0.0	3 4.9	1 1.6	2 3.3

3. 「最終学歴」

最終学歴 類 型	合 計	中 卒	高 卒	短大・ 大 卒	在 学 中	無回答
		合 計	840 100.0	310 36.9	369 43.9	
A	166 100.0	71 42.8	68 41.0	14 8.4	1 0.6	12 7.2
B	63 100.0	26 41.3	32 50.8	0 0.0	0 0.0	5 7.9
C	52 100.0	11 21.2	28 53.8	11 21.2	0 0.0	2 3.8
D	93 100.0	32 34.4	37 39.8	24 25.8	0 0.0	0 0.0
E	110 100.0	37 33.6	42 38.2	14 12.7	0 0.0	17 15.5
F	148 100.0	54 36.5	72 48.6	16 10.8	0 0.0	6 4.1
G	147 100.0	60 40.8	66 44.9	17 11.6	0 0.0	4 2.7
H	61 100.0	19 31.1	24 39.3	14 23.0	0 0.0	4 6.6

4. 「農業との兼業の状況」

農業との兼業状況	合計	1 全か くわい	2 あな はわい	3 たか なわい	4 家 自の 作物 作 っている	5 農 業の 収入 が主	6 農 業の 収入 が主 である	7 無 回答
合計	840 100.0	342 40.7	105 12.5	66 7.9	88 10.5	43 5.1	81 9.6	115 13.7
A	166 100.0	71 42.8	15 9.0	18 10.8	21 12.7	6 3.6	12 7.2	23 13.9
B	63 100.0	12 19.0	6 9.5	6 9.5	10 15.9	7 11.1	13 20.6	9 14.3
C	52 100.0	20 38.5	11 21.2	4 7.7	7 13.5	3 5.8	3 5.8	4 7.7
D	93 100.0	47 50.5	13 14.0	4 4.3	8 8.6	4 4.3	5 5.4	12 12.9
E	110 100.0	50 45.5	18 16.4	3 2.7	7 6.4	0 0.0	9 8.2	23 20.9
F	148 100.0	69 46.6	24 16.2	4 2.7	14 9.5	7 4.7	12 8.1	10 12.2
G	147 100.0	51 34.7	15 10.2	19 12.9	15 10.2	11 7.5	19 12.9	17 11.6
H	61 100.0	22 36.1	3 4.9	8 13.1	6 9.8	5 8.2	8 13.1	9 14.8

5. 「家族人数」

家族人数	合計	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人 以上	無回答
合計	840 100.0	26 3.1	72 8.6	111 13.2	160 19.0	163 19.4	108 12.9	166 19.8	34 4.0
A	166 100.0	3 1.8	12 7.2	22 13.3	32 19.3	41 24.7	19 11.4	32 19.3	5 3.0
B	63 100.0	0 0.0	6 9.5	4 6.3	10 15.9	11 17.5	7 11.1	19 30.2	6 9.5
C	52 100.0	1 1.9	0 0.0	5 9.6	11 21.2	10 19.2	8 15.4	15 28.8	2 3.8
D	93 100.0	5 5.4	15 16.1	17 18.3	17 18.3	17 18.3	9 9.7	12 12.9	1 1.1
E	110 100.0	8 7.3	9 8.2	15 13.6	21 19.1	23 20.9	12 10.9	14 12.7	8 7.3
F	148 100.0	7 4.7	7 4.7	21 14.2	29 19.6	25 16.9	20 13.5	32 21.6	7 4.7
G	147 100.0	1 0.7	12 8.2	16 10.9	31 21.1	28 19.0	24 16.3	33 22.4	2 1.4
H	61 100.0	1 1.6	11 18.0	11 18.0	9 14.8	8 13.1	9 14.8	9 14.8	3 4.9

6. 「家族構成」

家族構成	合計	単 身 世 帯	一 世 代 世 帯	二 世 代 世 帯	三 世 代 世 帯	四 世 代 世 帯	その他	無回答
合計	840 100.0	24 2.9	102 12.1	301 35.8	301 35.8	43 5.1	18 2.1	51 6.1
A	166 100.0	2 1.2	22 13.3	64 38.6	53 31.9	5 3.0	9 5.4	11 6.6
B	63 100.0	0 0.0	7 11.1	13 20.6	32 50.8	5 7.9	0 0.0	6 9.5
C	52 100.0	1 1.9	3 5.8	16 30.8	26 50.0	4 7.7	0 0.0	2 3.8
D	93 100.0	5 5.4	20 21.5	36 38.7	24 25.8	4 4.3	2 2.2	2 2.2
E	110 100.0	8 7.3	8 7.3	40 36.4	42 38.2	2 1.8	2 1.8	8 7.3
F	148 100.0	5 3.4	15 10.1	54 36.5	47 31.8	8 5.4	3 2.0	16 10.8
G	147 100.0	2 1.4	17 11.6	53 36.1	59 40.1	12 8.2	2 1.4	2 1.4
H	61 100.0	1 1.6	10 16.4	25 41.0	18 29.5	3 4.9	0 0.0	4 6.6

7. 「同居の子供」

同居の 子供 類型	合計	1	2	3	4	5	6	7	1~7 以 外の未 婚男性	1~7 以 外の未 婚女性
		乳 児	幼 児	未 就 学 児	小 学 生	中 学 生	高 校 生	短 大・ 大 学 生		
合 計	840 100.0	96 11.4	120 14.3	145 17.3	271 32.3	144 17.1	103 12.3	11 1.3	101 12.0	69 8.2
A	166 100.0	30 18.1	25 15.1	26 15.7	64 38.6	32 19.3	22 13.3	1 0.6	15 9.0	12 7.2
B	63 100.0	4 6.3	10 15.9	9 14.3	20 31.7	11 17.5	9 14.3	0 0.0	6 9.5	8 12.7
C	52 100.0	5 9.6	8 15.4	11 21.2	25 48.1	16 30.8	5 9.6	2 3.8	3 5.8	3 5.8
D	93 100.0	13 14.0	13 14.0	15 16.1	21 22.6	13 14.0	6 6.5	0 0.0	14 15.1	8 8.6
E	110 100.0	14 12.7	18 16.4	17 15.5	18 16.4	12 10.9	14 12.7	2 1.8	12 10.9	11 10.0
F	148 100.0	14 9.5	20 13.5	32 21.6	47 31.8	25 16.9	22 14.9	0 0.0	19 12.8	7 4.7
G	147 100.0	14 9.5	20 13.6	29 19.7	52 35.4	24 16.3	18 12.2	4 2.7	24 16.3	14 9.5
H	61 100.0	2 3.3	6 9.8	6 9.8	24 39.3	11 18.0	7 11.5	2 3.3	8 13.1	6 9.8

8. 「職業以外の役」

職業以外に について る役 類型	合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		PTA	子供会	農 協 関 係	町内会 関 係	スポー ツ団体	行政関係の各 種委員	消 防 関 係	商工会 関 係	婦人会	その他
合 計	840 100.0	64 7.6	27 3.2	40 4.8	74 8.8	43 5.1	17 2.0	12 1.4	17 2.0	55 6.5	56 6.7
A	166 100.0	16 9.6	6 3.6	2 1.2	16 9.6	5 3.0	1 0.6	1 0.6	1 0.6	8 4.8	5 3.0
B	63 100.0	6 9.5	2 3.2	6 9.5	8 12.7	1 1.6	2 3.2	3 4.8	1 1.6	8 12.7	4 6.3
C	52 100.0	6 11.5	4 7.7	8 15.4	6 11.5	11 21.2	3 5.8	1 1.9	2 3.8	3 5.8	3 5.8
D	93 100.0	3 3.2	1 1.1	0 0.0	8 8.6	6 6.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 3.2	8 8.6
E	110 100.0	0 0.0	0 0.0	1 0.9	2 1.8	2 1.8	0 0.0	0 0.0	1 0.9	2 1.8	7 6.4
F	148 100.0	13 8.8	5 3.4	9 6.1	16 10.8	10 6.8	3 2.0	6 4.1	3 2.0	3 2.0	10 6.8
G	147 100.0	16 10.9	6 4.1	9 6.1	10 6.8	7 4.8	3 2.0	0 0.0	4 2.7	25 17.0	11 7.5
H	61 100.0	4 6.6	3 4.9	5 8.2	8 13.1	1 1.6	5 8.2	1 1.6	5 8.2	3 4.9	8 13.1

9. 「居住地域」

居住 地域 類型	合 計	池新田	高 松	佐 倉	比 木	朝比奈	新 野	無回答
合 計	840 100.0	255 30.4	109 13.0	167 19.9	80 9.5	104 12.4	85 10.1	40 4.8
A	166 100.0	53 31.9	28 16.9	27 16.3	12 7.2	18 10.8	22 13.3	6 3.6
B	63 100.0	13 20.6	9 14.3	9 14.3	3 4.8	10 15.9	11 17.5	8 12.7
C	52 100.0	14 26.9	8 15.4	8 15.4	5 9.6	11 21.2	4 7.7	2 3.8
D	93 100.0	31 33.3	9 9.7	21 22.6	12 12.9	10 10.8	8 8.6	2 2.2
E	110 100.0	39 35.5	10 9.1	25 22.7	8 7.3	11 10.0	10 9.1	7 6.4
F	148 100.0	37 25.0	18 12.2	38 25.7	13 8.8	19 12.8	12 8.1	11 7.4
G	147 100.0	42 28.6	18 12.2	29 19.7	18 12.2	21 14.3	17 11.6	2 1.4
H	61 100.0	26 42.6	9 14.8	10 16.4	9 14.8	4 6.6	1 1.6	2 3.3

10. 「居住のありさま」

居住のあり さま 類型	合 計	ずっと住 んでいる	一時期離 れたが再 び住んで いる	家族の仕 事の関係 で住むよ うになる	自分の仕 事の関係 で住むよ うになる	結婚のた めにすむ ようになる	その他	無回答
合 計	840 100.0	254 30.2	200 23.8	58 6.9	55 6.5	212 25.2	22 2.6	39 4.6
A	166 100.0	51 30.7	34 20.5	17 10.2	5 3.0	46 27.7	7 4.2	6 3.6
B	63 100.0	27 42.9	9 14.3	2 3.2	2 3.2	16 25.4	0 0.0	7 11.1
C	52 100.0	17 32.7	17 32.7	2 3.8	2 3.8	12 23.1	0 0.0	2 3.8
D	93 100.0	27 23.7	28 28.0	7 7.5	14 15.1	21 22.6	2 2.2	1 1.1
E	110 100.0	30 27.3	21 19.1	8 7.3	8 7.3	30 27.3	7 6.4	6 5.5
F	148 100.0	46 31.1	50 33.8	6 4.1	12 8.1	22 14.9	2 1.4	10 6.8
G	147 100.0	46 31.3	29 19.7	8 5.4	7 4.8	51 34.7	2 1.4	4 2.7
H	61 100.0	15 24.6	14 23.0	8 13.1	5 8.2	14 23.0	2 3.3	3 4.9

11. 「居住年数」

居住 年数 類型	合 計	1 年 以 下	2～3 年	4～5 年	6～10 年	11～15 年	16～20 年	21～30 年	31 年 以 上	無回答
合 計	840 100.0	27 3.2	41 4.9	28 3.3	44 5.2	56 6.7	58 6.9	159 18.9	374 44.5	53 6.3
A	166 100.0	4 2.4	10 6.0	5 3.0	15 9.0	12 7.2	9 5.4	25 15.1	78 47.0	8 4.8
B	63 100.0	1 1.6	0 0.0	0 0.0	1 1.6	5 7.9	3 4.8	9 14.3	37 58.7	7 11.1
C	52 100.0	0 0.0	3 5.8	0 0.0	2 3.8	4 7.7	5 9.6	9 17.3	27 51.9	2 3.8
D	93 100.0	7 7.5	10 10.8	9 9.7	4 4.3	5 5.4	4 4.3	16 17.2	35 37.6	3 3.2
E	110 100.0	6 5.5	9 8.2	4 3.6	6 5.5	1 0.9	8 7.3	28 25.5	36 32.7	12 10.9
F	148 100.0	4 2.7	6 4.1	3 2.0	8 5.4	8 5.4	14 9.5	36 24.3	57 38.5	12 8.1
G	147 100.0	3 2.0	3 2.0	7 4.8	6 4.1	16 10.9	11 7.5	28 19.0	69 46.9	4 2.7
H	61 100.0	2 3.3	0 0.0	0 0.0	2 3.3	5 8.2	4 6.6	8 13.1	35 57.4	5 8.2

12. 「学習行動による住民類型のネーミング一覧」

類型A 「がんばる母さんグループ」



三十後半の子育て中の地元的女性が多く、つきあい程度の地域活動以外は学習していない。 19.8%

類型B 「活躍する役職おじさんグループ」



地域活動に熱心な地元の中高年の男女。いわば地域有力者、特に男性はほぼ全員が役付き、農業に従事し講習会や旅行にはよく積極的に参加するが勉強は苦手。 7.5%

類型C 「頼れるお父さんグループ」



地元の30代後半男性。地域活動には進んで参加し役職も持っている。特にスポーツは欠かさない、学歴も低くないが、美術などを鑑賞すること以外には特別な勉強はしていない。いわば、静岡のこれからの担い手。 6.2%

類型D 「新住の若い専門家グループ」



浜岡に新たに住むようになった若い男性が典型。学歴が高く、事務や専門職が多い。学習意欲は高く、テレビや通信教育で学びスポーツや資格を取ることに高い関心があるが、地域活動へは参加しない。 11.1%

類型E 「るんるんギャル・ママグループ」



浜岡に新たに住むようになった主婦を含めた若い女性が典型。地域に関しては拒否に近く本調査が前提とする学習行動には参加せず。 13.1%

類型F 「土地っこ若い衆グループ」



地元の若い男子が中心。そのためか地域活動を拒否しないが、特にやるわけでもない。高卒で工員や専門職が多く、資格を取ることは熱心。だが、他の勉強には関心なし。 17.5%

類型G 「活躍する中年婦人グループ」



地元の中年以上の主婦が中心。自営や農地を持っている人が多い。文化祭に出品し、自ら参加するなど、浜岡で行われる学習活動に最も熱心に関わる人達。 17.5%

類型H 「インテリシルバーグループ」



地元の学歴の高い高年令の男女、農業に加え会社経営や専門・自由業が多い。全般的に学ぶことに積極的で、特に個人で学習することが多い。いわば、現在の浜岡のリーダー。 7.3%